

ひなたの郷

文責 郡山市立日和田小学校長 高松宏光

【縦割り清掃】で心も育て！

本校では、1年生から6年生まで、各学年の子供たちが混ざった班編成で行う【縦割り清掃】を取り入れています。日和田小学校のような大規模な学校では、珍しいことです。学級ごとの清掃に比べ、教職員には多くの手間が生まれます。全校児童の班の編成、清掃場所の配当、担当者の割り振り、清掃用具の段取り…。しかし、手間をかけるだけの価値があると考えています。この活動を通して、上の学年の子が下の子の面倒を見ようとする優しさや手本を示そうとする姿勢など、大切な学びが生まれます。下の子たちは、上の子の姿を手本に、自分もしっかり取り組もうという気持ちが育ちます。

学校の大切な役割は、学習はもちろん、大人になるための **《社会性》** を育むことです。同学年、異学年交流、さらに様々な場面での大人との関りの中で、人間力を高めていきたいと思えます。

音楽の力

本校では、特設活動として「合奏部」「吹奏楽部」の二つが設置されています。ご存知のとおり、本来の教育活動に位置づけられたものではないので、教職員の理解・協力のもと、負担が増えないように配慮して活動を行っています。コンクールに参加して入賞を目指すという本格的な活動ではありませんが、その活動には大きな意義があります。

6月4日（水）に行われた全校集会の退場の場面では、合唱部員がステージに立ち、全クラスで取り組んでいる『今月の歌』を歌いました。退場していく子供たちは、合唱部に合わせ『今月の歌』を歌いながら退場していきます。ステージ上の合奏部員は、後半ダンスも交えながら歌い、その表情は生き生きとしています。退場していく子供たちも、楽しそうに歌を口ずさんでいます。会場の体育館全体が、温かな雰囲気につつまれていきました。音楽のもつ「力」を強く感じる、素敵な一場面でした。



「非認知能力」の大切さ

【非認知能力】という言葉を目にしたことはあるでしょうか？ちょっと難しそうなワードですが、内容はそうでもありません。【非認知能力】とは、物事に対する考え方、取り組む姿勢、行動など、日常生活・社会活動において重要な影響を及ぼす能力のことをいいます。学習の理解を高めていくうえでも、この力が重要であるといわれます。具体的には以下のようなものが挙げられます。

- **「自制心」**：自分の意思で感情や欲望をコントロールすることができる力

例：イライラしても人に八つ当たりしない

- **「自己効力感」**：自分はそれが実行できるという期待や自信

例：難しい問題でも自分ならできると考えられる

- **「勤勉性」**：やるべきことをきちんとやることができる力

例：宿題が出されたらきちんと終わらせる

- **「やりぬく力」**：自分の目標に向かって粘り強く情熱をもって成し遂げられる力

例：失敗を乗り越えられる



【福島県教育委員会ホームページ ふくしま学力調査 より】

具体例の4つを見ると、学習面に限らず、大人になって社会に出ても必要とされる力であることが分かります。学校と家庭の双方で、子どもたちに意識させていきたいものです。

子供たちの自我が形成されていく、この小学生の時期に、我々大人がしっかり育てていきましょう。

子供たちの力を高めるために（校内研修）

今年度、日和田小学校では、算数科を研究教科とし『**数学的な見方・考え方を磨く ～主体性・対話的な学びを通して～**』を研究主題に取り組んでいます。

以前の授業は、ともすると教師から子供たちへの一方向の指導という「教授型」になりがちでした。しかし、デジタル化、グローバル化が加速度的に進んでいく現代、そうした受け身の学びからの脱却が求められています。子供たちの主体的な学びの姿勢や、他の子との関わり合いの中から自分の考えを深めたり広げたりする活動が必要とされています。

6月27日（木）には5年生のクラスで研究授業を行い、教育委員会の指導主事を招いて事後に研究会を行いました。指導力を高めようとする教職員の姿勢が強く感じられ、嬉しく思います。

教職員一丸となって研修に努め、子供たちの力をしっかり伸ばしていきます。

